

第10回 ネパール野球交流活動 活動報告書

2004年8月29日～9月19日

プール学院大学 異文化間協働センター

ネパール野球交流活動グループ

全体の報告、感想

活動を続けてきた先輩方から受け継いだ「野球というスポーツを通してこどもたちと交流する」ことをモットーに第十回目のネパール・野球交流活動はスタートしました。事前準備で参加者の間で大切にしていた「野球の楽しさを知ってもらう」ことを第一に考え、練習はランニングゲームやシートノック、また実戦を通して勝った喜び、負けた悔しさを感じてもらおうと試合も多く行いました。

また今回の目玉は、練習以外にもスコアボードの作成を行いました。事前研修で行った街頭募金で集めた資金で、一畳ほどのサイズの板と黒板用ペンキ、白ペンキ、ハケ、釘を現地で購入し、こどもたちへのプレゼントとして私たちが作りました。このスコアボードに「めざせオリンピック」と日本語で書き、裏には私たちの名前と日本、ネパールの国旗を両サイドに描きました。こどもたちはもの珍しそうにスコアボードを見ていましたが、その顔はうれしそうに見えました。学校対校試合ではこのスコアボードを使ったおかげか、いつになく白熱した試合ができたように思います。スコアボードの作成と同時に日本から持ってきたネパール野球活動をアピールするためのポスターをボカラ市内に貼りました。朝の練習が終わってから夕方の練習までの時間に多くのお店やレストランの一角にポスターを貼らせていただきました。

通常の朝夕の練習では、練習に来るこどもたちは30名ほどで、それぞれ練習場所や練習メニューが異なりました。朝の練習は野球経験の浅いこどもたちが多かったので、毎日のメニューは主にキャッチボール、シートノック、ランニングゲームが中心でした。同じ練習メニューを続けたことでこどもたちの技術はみるみる上達し、フライボールや速いボールをうまくキャッチ出来たときは大喜びでした。

夕方の練習は、野球経験のある「オールドメンバー」が中心で、試合を多くこなし、日本チーム対ネパールチームの試合も何度か行いました。試合に参加できるこどもたちは、チームを応援したり喜びを分かち合ったりしていましたが、試合に参加していないこどもたちに退屈な時間を作ってしまったことが反省でした。そこで、こどもたち同士で試合をさせ、試合に参加していないこどもたちにバッティングを指導しようとしたのですが、ボールが飛び交い危険であり、また試合も活気をなくしてしまい、うまくいきませんでした。それでも参加できなくても見に来てくれるこどもたちがいたのはうれしかったです。

練習以外にもこどもたちと協力して生まれた活動がありました。彼らが練習をしている広場は、本来スポーツができるようなグラウンドコンディションではありません。このグラウンドをみんなで毎日少しずつきれいにしていこうと私たちこどもたちに呼びかけ、夕方の練習終了後、石拾いをしました。

この野球交流活動に参加しているこどもたちからも私達が学ばせられることもありました。日本の何気ない日常生活では味わうことができない人とのふれあい、そして何より野球というスポーツがこんなに楽しいものであるということに気づかされました。まだまだ

野球道具が不足し全員がグローブを持って、キャッチボールができる環境ではありません。しかしその中で白球を懸命に追いかける姿を見て、これからもこのネパールでの野球活動が続き、今は小さいこどもたちでもいつかは選手やコーチとして世界を舞台に活躍してほしいと思いました。そしてこの野球活動をポカラだけでなくネパール全体や日本でも広めて行きたいと思います。

今では、私たちはネパール野球だけでなくネパールという国に興味を持ち、第二のふるさとであるかのように思え、新聞記事やニュースなどでネパールのことが取り上げられていると目が釘付けになってしまうほどネパールが好きになりました。

雨の影響でグラウンドの状態が悪い日もありましたが、日を追うごとにこどもたちが上達し、日本でも決して良いプレーヤーではない私達も野球を身近に感じる事ができ、一生忘れることのない二週間を過ごすことができました。

今回参加した私達 8 名だけでなく多くの方々のおかげでこのプログラムを終えることができました。この野球交流活動に参加して本当に良かったと思います。



皆様から暖かいご協力を頂きありがとうございます。

今年でこの活動も6年目を迎え、この度、大きな節目となる第10回目の活動を行ってまいりました。その活動報告をさせていただきます。

期間：2004年8月29日～9月19日

場所：ネパール ポカラ市 アマシン、バルバトラセカンダリースクール

参加者：森本昌宏	(プール学院大学 3回生)
：布本貴大	(プール学院大学 3回生)
：浜崎健介	(プール学院大学 3回生)
：藤田亜美恵	(プール学院大学 4回生)
：橋本麻三子	(プール学院短期大学 1回生)
：大西慶子	(プール学院短期大学 1回生)
：阿部陽司	(関西学院大学 3回生)
：牧野敏夫	(関西学院大学 3回生)



スケジュール

・ 事前研修

出発前に募金活動を含めて8回の事前研修を行いました。野球練習、ルール説明、野球道具の箱詰め、怪我の応急処置、ネパール語、ネパールの文化（歴史、社会、経済、宗教など）についての勉強会を行いました。

また街頭募金は大阪駅周辺にて2回行いました。

・ 現地でのスケジュール

日付	午前	午後
8月29日		カトマンズ着
30日	カトマンズ大学訪問	BHAKTAPUR見学
31日	空路でボカラへ	
9月 1日	日本語オープニングセレモニー	野球オープニングセレモニー
2日	バルバトラで野球練習開始 内、外野ノック ランニングゲーム	アマシンで野球練習開始 内、外野ノック (雨のため5:30で終了)
3日	練習開始前に子供達に名札を作 って渡す 内、外野ノック	ホームステイ
4日	ホームステイ	初試合!! ・ネパール(オルド・メンバ・メイン) チーム vs ラリグラス 【12-1】 ラリグラスチーム完敗
5日	ティーバッティング	試合 ・ネパール(シリシッダ) vs ネパール (アマシン) 【6-4】 ・ネパール(オルド・メンバ・メイン) vs ラリ グラス 【7-3】
6日	観光。お寺へお参り。ネパール の生活用水が流れる水道を見に 行き、川を見学。	滝を見学。
7日	練習前に子供達に帽子をあげる 遠投 ノーミスボール回し	試合 ・ネパール(アマシン) vs ネパール(シ リシッダ&バルバトラ) 【5-4】 ・生徒のインタビュー
8日	子供達だけで試合をする 【6-4】	休み。町に野球宣伝用ポスターを貼りに 行く。

9日	ゲームノック 生徒のインタビュー	雨のため休み。
10日	内、外野ノック	試合 ・ネパール(アマシン) v s ネパール(シリシダ&バルバトラ) 【3-4】
11日	カーストが低い子供達が勉強している学校を訪問。	チベット仏教僧院を訪問。
12日	バルバトラのチームリーダーが監督になって、バルバトラ同士で試合。日本人は、審判や応援にまわる。 【7-2】	試合 ・ネパール(オールドメンバー) v s ラリグラス 【4-3】
13日	雨のため休み。 スコアボードを完成させる!!	試合 ・ラリグラス v s ネパール(オールドメンバー) 【5-1】 ラリグラス初勝利!!
14日	NEPAL BASEBALL CHAMPION CUP スタート バルバトラ v s シリシダ 試合結果、 12 v s 1 バルバトラ勝利!!	試合 ・ラリグラス v s アマシン 【11-6】 ラリグラス勝利!!
15日	日本語クロージングセレモニー	試合 ・ラリグラス v s バルバトラ 【4-4】 引き分け 野球クロージングセレモニー
16日	空路でカトマンズへ	
17日	やさしさ日本語学校訪問	お寺見学
18日	Free	・ESODECとお別れパーティー 空港へ
19日	帰国	

・毎日の練習開始前には全員でウォーミングアップ(ランニング、準備体操、キャッチボール)を行いました。

・ラリグラス=日本人チーム

・オールドメンバー=アマシン、カリカ、シリシダの卒業生

・ 1日のスケジュール

朝はバルバトラ、夕方はアマシンのグランドで練習を行いました。

時間	内容
6:00	朝食
6:30	バルバトラのグランドへ 出発
7:00~9:00	練習
9:30~10:00	ミーティング
10:00~16:00	フリー
16:00	アマシンのグランドへ出 発
16:00~18:00	練習
20:00~21:00	ミーティング



生徒のインタビュー

質問内容

1. 名前、年齢、ポジション
2. 野球歴
3. 野球は楽しい？何が楽しい？
4. 野球を広めるにはどうすれば良いと思う？
5. 野球以外で何のスポーツが好き？
6. 親は野球をどう思っている？
7. 宝物は何？
8. 将来なりたい職業は何？
9. 日本の協力者に一言！
10. もし 1000 ルピー持っていたら何に使う？



1. タイガー、11 歳、レフト 2. 1 年 3. 楽しい、キャッチボール
4. テレビに出て紹介したり、ポスターを貼ったりする 5. サッカー
6. ナイス 7. 本 8. エンジニア
9. もう一回、野球を教えに帰ってきて欲しい 10. お母さんに全部あげる

1. ラジェス、12 歳、センター 2. 1 年 3. 楽しい、キャッチボール、バットイング
4. みんなでいろんな学校へ行き、野球を見てもらう、友達に自分たちでルールを教える 5. サッカー 6. 野球に行きなさい、でもケンカはしないと言われる 7. 体、勉強道具
8. 野球選手 9. ありがとう 10. 本と野球のユニフォームを買う



1. マハデーブ、12歳、ライト 2. 1ヶ月 3. 楽しい、バットイング
4. みんなでポスターを作って他の町や店に貼る 5. サッカー、クリケット
6. 両親も野球が好き 7. 親 8. 野球選手 9. 両親に渡す
10. 協力をこれからもよろしくお願いします

1. ウッタン、12歳、センター 2. 1ヶ月 3. 楽しい、キャッチボール 4. みんなでポスターを作って、他の町や店に貼る 5. サッカー 6. 家族も野球が好き 7. 親 8. 野球選手
9. ありがとう 10. ユニフォームを買う

1. ミロン、12 歳、ライト
2. 2 ヶ月
3. 楽しい、キャッチボール
4. ほかの友達に来てもらい、ルールを教える
5. サッカー
6. 良いと言う
7. 勉強
8. 野球選手
9. ありがとう
10. 勉強に使う



1. モダン、12 歳、センター
2. 1 年
3. 楽しい、バッティング
4. テレビを使う、野球を知らない子に楽しいと伝える
5. クリケット
6. 行っておいで
7. 両親
8. 野球選手
9. ありがとう
10. 勉強に使う

1. ロビン、13 歳、キャッチャー
2. 1 ヶ月
3. 楽しい、キャッチボール
4. いろんな所に行って教える、家の近所でキャッチボールなどをする
5. こま
6. 良いと言っている
7. 両親
8. 野球選手
9. これからもご協力お願いします
10. 両親にあずける



1. ラジュ、13 歳、レフト
2. 2 年
3. 楽しい、キャッチボール
4. 野球道具がないので、道具があれば広まると思う
5. サッカー
6. いいと思っている
7. 野球
8. 新聞記者
9. 野球を教えに来てください
10. 本を買う

1. サンディーブ、13 歳、セカンド
2. 2 年
3. とても楽しい、キャッチボール
4. 野球は楽しいと声をかける
5. クリケット
6. 野球に行けと言ってくれる
7. 体
8. 軍人
9. ありがとう
10. ユニフォームを買う



1. スリークマル、13 歳、ライト
2. 3 ヶ月
3. 楽しい、キャッチボール
4. あみえが教える
5. クリケット
6. ナイス
7. 本、ノート、ペン
8. 野球選手
9. 野球を教えてくれてありがとう
10. 半分は服とユニフォームを買って、半分はお母さんにあげる

1. ハリ、14 歳、ピッチャー
2. 1 年 4 ヶ月
3. 楽しい、ピッチング
4. 学校で説明する
5. プールボール
6. 良い
7. ベースボールテクニク
8. 野球選手
9. ありがとう
10. 勉強に使う



1.ラズ、14歳、レフト 2.2年 3.楽しい、バッティング 4.学校同士の対抗試合を見てもらう、新しいメンバーと一緒に野球をする 5.サッカー 6.野球をしてくれて嬉しい 7.教育 8.素晴らしい野球選手 9.とても感謝している 10.勉強に使う

1.ラゼンドラ、15歳、ショート 2.6ヶ月 3.楽しい、バッティング 4.知り合いに言って連れてくる 5.サッカー 6.良いと思ってくれている 7.両親 8.野球選手 9.ありがとう 10.文房具や本を買いたい



1.ビレ、15歳、セカンド 2.1年 3.楽しい、バッティング 4.他の子と野球をして遊ぶ 5.サッカー 6.楽しんで来い 7.分からない 8.野球選手 9.ありがとう 10.勉強道具を買う

1.オニル、17歳、キャッチャー 2.3年 3.楽しい、試合 4.友達に少しずつ広める 5.サッカー 6.ナイス 7.本 8.ナショナル選手 9.シヤムは毎日来られないので、日本のコーチが必要 10.本買ってペンかって、肉食べて野球のユニフォーム買う



1.ラズ、17歳、サード 2.3年 3.楽しい、バッティング 4.他の学校にも広める 5.クリケット 6.野球をすることはいい事だと思っている 7.教育 8.野球選手 9.野球を教えに来てくれてありがとう 10.野球道具と教育

1.ナラヤン、19歳、センター 2.4年6ヶ月 3.楽しい、バッティング、ノック 4.学校同士の対抗戦をする、他の学校に教えに行く 5.サッカー、バレーボール 6.野球も勉強も頑張れ 7.教育 8.野球選手 9.ありがとう、日本人がもっとネパールに来てくれることを望みます 10.野球の靴を買う



参加者インタビュー

森本昌宏 好きな言葉：晴れ

私はネパール野球交流活動を通して、ネパールの子ども達と共に汗を流すことができました。毎日、雨天や私たちの体調のため練習することができませんでしたが、晴れた時は特に清々しく、芝も良く思い切って野球に専念することができ楽しかったです。雨の時は、学校の教室で腕相撲や、ダンスをしたりして過ごしました。日々野球をして楽しんでいるうちに、自分自身野球が上手くなっていることを感じました。また子ども達の野球に取り組む姿勢を見てこれからもずっと野球を続けて、ネパール中に野球を広めていってほしいと思いました。

牧野敏夫 好きな言葉：カリスマ、真理は汝を自由にする

まず始めに、この活動に参加するにあたってサポートしてくださったすべての方々に、そして特に3週間を共にした今回の活動メンバーに感謝したい。ちょっとした偶然から始まった私にとってのネパール野球、現地での3週間は楽しかったなどという安易な言葉では片付けてほしくない程中身の濃いものでした。当初、自分のかつての野球経験に変なプライドを持っていた私ですが、ネパールの子ども達と baseball を楽しむうちに言葉も年齢も超え、野球を始めた頃の気持ちを思い出しました。たった1つのボールで日本人とネパール人が共に笑い本気で悔しがる。難しく考えていた異文化交流も本当はもっと単純で簡単なものなのではと思えてきた。いつの日かまた牛だらけのグラウンドに戻り「ベースボール ラマエロ フンチャ??」「(野球は楽しいですか??)」「フンチャー!!」「大好き!!」って言う元気な子ども達の声を知りたいと思います。 「目指せオリンピック Since 2004」

浜崎健介 好きな言葉：二兎を追うものは一兎も獲ず

今回のネパール交流活動が初めての研修でした。そのため行く当日までかなり心配でした。そんな心境での初日、エラーもいっぱいしました。そんな自分を見てネパールの子ども達は白い目で見てくるんじゃないかと思いました。でも違いました。子ども達はそんな自分を見て激励してくれました。それで気が付きました。自分達は野球を一方的に教えに来たのではなく、自分達とネパールの子ども達で手を取り合って一緒に楽しむためにこの交流があるんだと思いました。そして、この交流も一種のボランティアの形だと思いました。そして学びました。人種が違って、言語が違って、分り合うこと、そしてそれらが些細な問題であることを。このネパールのことを日本の喧騒の中で暮らしている人々にもこんな世界がある事を知ってもらいたい。

橋本麻三子 好きな言葉：時代、今日の風に吹かれましょう

ネパールでの3週間は私が過ごした18年間と同じくらい深いものでした。出発前は異国の地で、未経験の野球をすることにはかなりの不安を持っていましたが、今は心から、この活動に参加できて良かったと思います。野球を通して人の優しさ、温かさに触れる事ができたと思います。皆さん本当にありがとうございました。

布本貴大 好きな言葉：心の「こ」

ネパールという国をそんなに知らなかったけれど、すぐに好きになりました。牛や犬が野放し状態で生活しているのに、自然の豊かさを感じました。日本では絶対にありえない自然がネパールにはありました。野球は素直に楽しめて良かったです。スポーツの交流に国境はなかったし、一生懸命頑張っていた自分に気付いたり、いろいろな自分を発見できた気がしました。この研修に参加できて良かったと思います。

大西慶子 好きな言葉：感じてきたもの 触れてきたもの 私が信じたもの

私は始め、自分が教えられる野球の知識を教えるという目標を達成することが、この活動の定義だと思っていました。けれど実際ネパールに行って、子ども達に野球をおしえていくうちに、彼ら彼女らからもっと大切なことをたくさん教えられました。行く前からこの活動は「野球を楽しく広める」ということがテーマで、その意味が自分自身ネパールに行って、初めて理解する事が出来ました。今回ネパール研修に参加させて頂いて、人として一番大切な事を学びました。例えばネパールの子供達には1人1つのグローブがありませんでした。彼らは、少し嫌そうにしながらも、交代でグローブを使っていました。この姿からだけでも、私はたくさんのことを学びました。まず、物を大切にしないといけないこと、次に、友達を思う優しい気持ち、野球への向上心。毎日毎日が私にとって勉強でした。彼ら彼女らに教える立場にありながら、子ども達から学んだ事の方が多かった気がします。彼らと野球をしているうちに、素直に一生懸命、野球をしていました。私をこのようにしてくれたのも子供達です。自分に出来る事は一生懸命やってきたと思います。けれど、まだまだという事もわかっています。

もし、次回も行けるなら今回の経験を良い土台にして、また頑張りたいと思います。

阿部陽司 好きな言葉：一生懸命

三週間のネパール研修で自分は何が出来るのか？出発直前に私が抱いた正直な気持ちでした。決して社交的とは言えない私の性格で言葉も文化も違うネパールの子供達と上手くやっていけるのかという不安が常に頭をもたげ、憂鬱な気分グラウンドへと向かうことになりました。

今振り返って私が子供達にしてあげられることは結局些細なことだったかもしれないですが、彼等が私の名前を呼ぶ度に見せてくれる笑顔は私の不安を消し去り、ただひたすら

に野球を共に楽しむという原点的な気持ちを思い出させてくれました。

たった三週間で自分や子供達、そしてネパール野球の何かを変えられたとは思いません。それでもこの三週間は貴重で忘れがたい時間になったと信じています。

最後に、この貴重な時間を与えてくださったブール学院大学、三浦さん園田さん一緒に野球ができたメンバーみんな、そしてネパールに心から感謝します。

藤田亜美恵 好きな言葉：キラキラ

今回、私はネパール研修の参加が2度目で他の参加者はネパールが初めてということもあり、プレッシャーを感じながらこの研修を迎えました。しかし、いざフタを開けてみると先生や野球メンバーや日本語チーム、そしてなによりネパールの人々に助けられ支えられる毎日でした。そして日が経つにつれ国籍も、年齢も、男女も関係ない裸の自分がそこにいる事に気付いた。私は野球をするのが今回の研修が初めてという事もあり決してネパールの子供達に野球を教えてあげられるほどの技術を持ち合わせていなかった。しかし、こんな私をネパールの子供達は受け入れてくれた。とても嬉しかった。だけど悔しかった。もっと野球が上手になりたいと思った。野球をするのが大好きになった。最後クロージングセレモニーの日、野球を頑張っている子どもにミサンガをあげる事にした。「Do you like baseball?」と聞いた私の目をじっと見つめ、コクッとうなずいた。彼は本当に野球が好きなんだと思った。ミサンガを結ぶ手が振るえてうまく結べなくて彼を抱き寄せた。私も彼も野球が大好きでネパール野球に参加したすべての人々が、野球を好きでいてくれたのなら、それは何よりも大切にこれからもそうあってほしい。この三週間の一瞬一瞬は私にとってかけがえのない大切な宝物です。いつかまた変わらぬ笑顔があふれるグラウンドに戻って一緒に笑い、野球をしたいです。最後に一緒に活動した仲間、三浦さん園田さんネパール野球を支えてくれている全ての人々に感謝します。ダンニャバード。(ネパール語でありがとう)



三浦昌広の活動報告

2004年4月より5ヶ月間の派遣を終えて無事帰国してまいりましたので、報告させていただきます。

感想

この五ヶ月間1日1ページときめて毎日欠かさずつけていた日記には書ききれないくらい出会った「驚き」のエピソードに溢れています。でも短く感じることはない不思議な時間でした。この日記はきっと一生の宝になると思います。日記につけ続けたその驚きは生活や文化など学生時代に経験した二度の研修でわかっていたつもりの小さな生活の違い、日本でも感じるゴキブリをはじめとする虫との闘い、あきらめていたけれど実感したトイレ、シャワーの問題から、長く住まなければわからない気候や文化の違い、チケットの手配



や活動にかかわる様々な交渉まで、全てが刺激的で全てが私を驚かせ、強くしてくれました。言葉の通じない国で物事がうまく進まないために、「あきらめ」の気持ちから私の活動は始まりました。しかしそのあきらめの気持ちが、少しずつ怒りにかわり、伝えたい事を必死で表現しようとした時に、「言葉」ではなく「行動」によって野球少年少女たちは応えてくれました。その気持ちが通じ合う瞬間に出会い、その瞬間は今までに感じた事のない喜びを感じました。

こどもたちとの交流のために出かけたピクニックで、自分の腰くらいまでしかない背丈の子どもたちとご飯を作ったり、川で泳いだりしたとき、ふと周り見、この中で一番弱い存在は自分じゃないかと思うくらい、みんなをたくましく感じることもありました。しかし、そんな「頼りない」自分に気がついていながら、練習中はこどもたちがついてきてくれないことに腹を立て、こどもたちの気持ちを考えずに怒る自分を情けなく感じることもありました。

様々な出会いがありましたが、全ての喜怒哀楽がこの国を受け入れるということ、好奇心を持つことにつながりました。一人で本当に様々な自分に会いました。一人でよく考え、悩みました。ネパールには毎日のありきたりな事に感動し共感する幸せがあります。こどもたちは、遊ぶときには本気で遊び、弱いときはみんな弱く、そして正直です。どう表現していいかわからないけれど、そんなまっすぐな気持ちをありのまま受け入れるために、私自身、背伸びをすることなくこどもたちに接し、また「教える」のではなく、「みんなの一員になろう」、「今できることを探し続けよう」ということを心がけていました。

好奇心と興味だけでろくに言葉の勉強も準備もせず、最初から壁にぶつかってしまいま

したが、様々な人々に協力して頂いたおかげで、五ヶ月間を無事に過ごすことができました。日本からの励まし、ネパール側の協力者、ネパールで出会ってアドバイスをくれた日本の方々、家族、友人に今までに持てなかった感情を持つことができました。全ての皆様に支えられていることを実感した五ヶ月でした。毎日キャッチボールを楽しんで思いっきりプレーできたこと、心に残る経験をさせて頂けた事に感謝しています。本当にありがとうございました。これからもみんなと変わらずいろんな驚きに出会えるように微力ですが力を尽くしたいと思います。

ネパールでの活動は少しずつ動き始めていますが、まだまだ皆様方の協力が必要な現状です。引き続きご協力をお願いします。みんなと出会えてよかったです、ありがとうございました。



1 スタート

当初は、長い間続けている生徒と練習して、一番上手くなること、私自身練習を繰り返して、もう一度野球と向き合うこと、そして前年完成したフェンスのある場所に彼らとグラウンドを作る事を目的としていた。しかし行ってみるとメンバーは体こそ大きくなっていたが野球を続けておらず、5校続けていたはずの学校も1校だけ、しかも10～13歳の小さな子が7、8人続けているだけだった。道具もその学校にグローブ12個、ボール5個、バット2本があるだけで想像とはかけ離れたスタートだった。

2 スケジュール

朝は優先して、園田さんが帰国後も続けていたバルパドラセカンダリーに通った。時間は6:30～8:00、胸にボールを投げる事からのスタートだった。昼は今までの活動で交流していた4校に再び紹介することと、新しい生徒の参加を求めセカンダリースクールの授業で野球を教えることになった。土曜日は日本の日曜と同じで休日。日曜、アマ・シンセカンダリー。月曜、カリカセカンダリー。火曜、水曜、シリシダセカンダリー。木曜、金曜、バルパドラセカンダリーに教えに行った。この活動を通して先生達と積極的に会話をして、翌年も翌々年も野球を生徒に紹介できる環境になるようお願いした。夕方はアマシンセカンダリーの前年フェンスを制作した場所で、練習を再び始めた。ここには道具もなく本当に1からのスタートで準備に時間がかかった。4:00～6:00。真剣に通う生徒は少なかったがこの場所で野球をしていることをアピールできた。またここが始まった事によって、バルパドラと毎週土曜日に試合ができるようになり生徒の向上心につながった。以前のように一カ所では家の遠い生徒もいて練習の参加に消極的な生徒もいたが、二カ所になりどっちのグラウンドにも他校の生徒が顔を出すようになり学校間の交流にもなった。

3 野球道具、道具管理、活動資金

最初は言葉も全くわからなかったこともあり、二年前のだいたいの数はわかったが完全な道具の数の把握ができなかった。問題は紛失、盗難もあり道具の老朽化や雨期によるカビの問題など様々。そのような道具に愛着心を持たせようと思い、無理無理と言う生徒に私が先に作り可能な事を伝えようとした。

「グローブ」

皮で作ることも考えたが、やはり値段が高くなり身近にあるビニールシート、縫い糸、ベッドの中綿、洗濯紐を使い壊れたグローブを解体し型を取って切り、縫い合わせ、くくり合わせた。これは生徒にもなかなか好評で自分でもよくできたと思ったが、雨が降ったときの耐久性や強い打球に弱く駄目になった。そしてとりあえずカトマンズのホテルのオーナーの息子に皮で試作品を作ってもらうように依頼したが革製品を作る針は全部太くてグローブを縫える針は無いとの事だった。

「バット」

学校の近くの木材屋さんに行ってとりあえず木目を見て、試作品を一本150ルピー（約300円）で作ってもらった。出来上がりの形はバットでニスもちちゃんと塗ってある見た目は日本製とそんなに変わらない。

問題は重さ。日本のバット技術のように中身をくりぬくことは頼んでもできないと言われた。

「ユニフォーム」

私が一緒に半年間毎日続けた生徒はみんな、半パン、Tシャツ、サンダルで続けた。何ヶ月かして加わりだした大きい生徒や昔やっていた生徒は過去に私たちが持ってきたユニフォームを着ている。しかし小さい子は年の差を大事にし何も言えない。彼らに聞くともちろん毎日野球して無いのだから次の人に渡すべきだと言っていた。もちろん私たちの道具の渡し方にも疑問をもって考えなおさせられた。そこで何か無いかなと、白いTシャツを買って糸で学校名と番号を手で刺繍し始めた。完成したのはたった三枚だけでまた帰る直前だったけど他の子も自分の服に刺繍して作るって言ったりして嬉しそうだった。次に行った時に9までできていることを願って、ひそかに楽しみにしています。

「道具管理」

来たときの状況を見て本当に思ったのが完全に安全な場所が無かったこと。どこに置いていてもちょっとした時に無くなるし、みんな責任逃れする。さすがに怒ってもどうしようも無い時に生徒と校長に話しに行った。その結果バルバドラには野球専用の道具部屋ができ、セーフティーボックスへそれぞれ学校の責任で置くことになった。ボールの紛失は川に流されたりどうしてもさけられない時もあり、いくら注意しても想像の範囲を超える事も起こるから少しのロスは仕方ないと思う。道具は今必要な物以外はホテルのオーナーでありエソデックのメンバーのヒラチャン氏の倉庫に置いてある。例えばグローブが壊れて紐が必要になったとき、ボールが無くなって必要になったときはリーダーか責任者がリストを作り交換に道具を渡してくれるようにヒラチャン氏に頼んできた。また全ての今の道具リストも作成し、日本、ヒラチャン氏、各学校に置いてきた。道具が限られている今は制作のスタートと管理の徹底が課題になる。

「活動資金」

私がいる時に必要になったのは私の滞在費、道具の制作費、あとエソデックからリクエストされた少しでも生徒が大きくなる為に役立てばと週一回のお茶とおやつを振る舞う事だった。これから必要になるのは引き続き道具の制作費、(試作品を日本から送るのもいい)そして私の後、生徒の指導にあたってもらうことになったシャム・グルンの指導費が必要になる。シャムは生徒の人数や起こる問題を月一回レポートとしてヒラチャン氏に提出し、それが私に届くことになり、それをもとにこれからの私たちラリグラスの会の

が確立する一歩になると思う。以上がこれからの活動資金で必要だと思う。

4 第10回交流活動

私が行く前に問題になっていたのが現在のプール学院の生徒と卒業したラリグラスの会のメンバーとの間の参加者がいないことだった。互いに情報の交換もできず困った事もあった。その問題も含め、みんな自身が野球を本当に好きになって帰ることを私自身の目標とした。私も今回の活動でいきなりのエソデックのメンバーや学校側の積極的な参加に正直戸惑ったが、今回の活動が私の活動も含め大きな紹介になったと思う。日本側にも私が学生の時に経験したような何にも変わる事のない経験ができたと思うし、何より野球の楽しさを肌で感じたと思う。

それぐらいキャッチボールやバッティングが楽しいものだとも改めて思い、みんなを見てもっと野球が好きになった。今回の活動がまたスタートになった活動だったと思う。

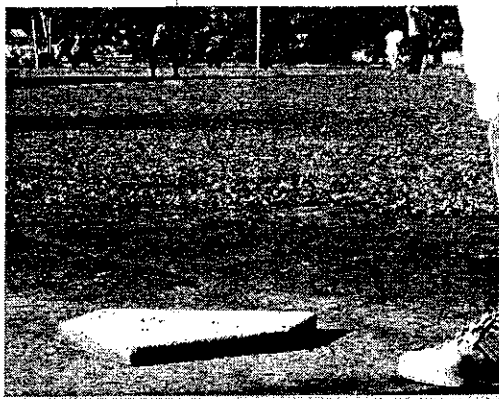
5 カトマンズ大学交流試合

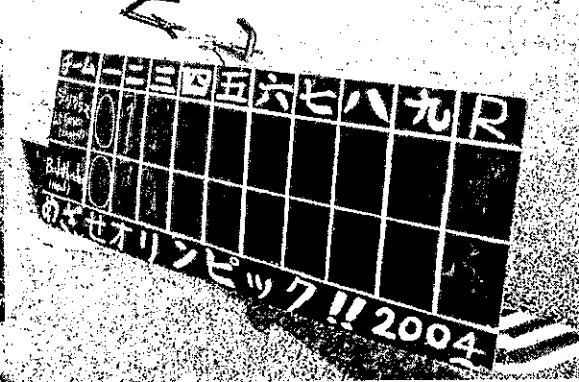
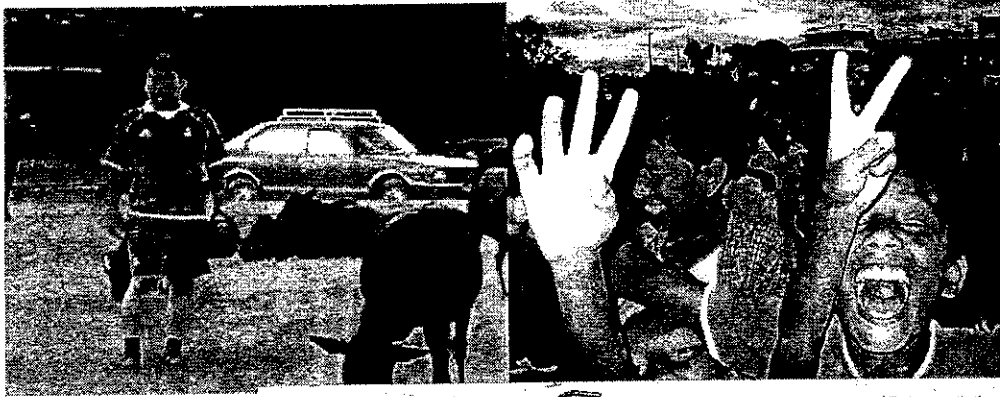
二年前、前任の園田さんがカトマンズ大学と交流試合を行って、その時始めたばかりで連れて行ってもらえなかった生徒が今の中心となっていて彼らからのリクエストもあり続けることの目標になればとカトマンズ大学、学生部部長のプスバ教授と話をして実現することになった。

一年だけでなくこれからも続けて欲しいと伝えたとプスバ教授も生徒の交流のためにぜひ翌年もできるようにしたいとカトマンズの生徒にも話しあってくれるとの事だった。今回はボカラから14名が参加しエソデックのメンバーから成功の写真とメッセージを貰っている。

6 Mrヒラチャン氏

過去の活動に全て参加しているホテルのオーナーでありエソデックのメンバーであるヒラチャン氏から「何度失敗してももう始めてしまったからにはあきらめないから、あなたも思いきって挑戦して欲しい」と言葉をもらい正直気持ちが楽になった。彼の協力のおかげで、ネパールの文化に言葉に半年間ではとうていうめられないものをうめやすくしてもらった。一日三単語覚えなさいとか、ヨガをしたら健康になるよとか、花の話とか野菜の話とかことある事に話しを助けられて野球だけでなくこの国における生き方を伝えて貰った。とてもリラックスして生活できた。思い切って行動できる環境と頭を冷やせる環境を貰った。彼と同じようにこの活動に変わらず協力していきたい。感謝しています。





0
1
2

4
5
6

連 絡 先

住所：大阪府堺市槇塚台4-5-1

プール学院大学 異文化間協働センター

ネパール野球交流活動グループ

TEL：072-292-7201

ホームページ：<http://www.occn.zaq.ne.jp/nepalbasaball>.

ネパール野球交流活動 活動報告書

ネパール野球交流活動グループ

ラリグラスの会

活動の始まり

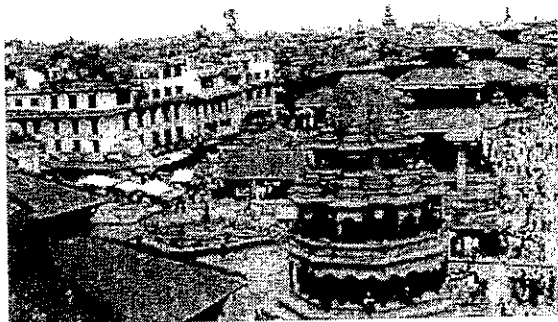
プール学院大学では、1996年から海外研修プログラムの一環として、ネパールのポカラ市内にあるセカンダリスクール（日本でいう小・中学校）で、日本語を紹介するという研修旅行が毎年一回実施されています。

99年の3月に実施されたその研修旅行に当時野球部員であったメンバーが参加し、ネパール研修中もキャッチボールがしたいと思い、ゴム製のボールを鞆の中に入れていきました。そして、カトマンズの街角で野球部のメンバーと共にキャッチボールをして遊んでいると、歩いている数人が立ち止まり、もの珍しそうにその姿を見ていたのです。

それは日本語紹介を行っているネパール第2の都市ポカラ市でも同じことでした。そこから、ネパールには野球がないということがわかりました。

ある日、研修旅行の発案者でもあり、引率者としても同行していた当大学の松田教授から、ネパールに野球を広めないかとの誘いがありました。それなら是非とも引き受けたいと、帰国後知り合いに呼びかけたところ、たくさんの方々が協力して下さり、この活動が始まりました。

そして、ネパールのNGO団体であるESODEC（ネパール社会教育開発センター）の協力のもと、1999年の9月から1校目の学校アマ・シンセカンダリースクールとの野球紹介活動が始まりました。



活動の経緯

1999年9月、アマ・シンセカンダリースクール（以下アマシン）の生徒たち約20名と共に第1回ネパール野球交流活動が開始されました。「野球とは何か？」をテーマに野球のルールの説明、キャッチボールなど基本的な練習を中心に行われました。初めて生徒たちがボールを手にした時は、キャッチボールさえ上手くいきませんでした。しかし、ルールを覚えていくと共に、生徒たちの野球に対する想いも熱くなり、日に日に技術も上達していきました。この時のメンバー20名で結成された「ボカライエティーズ」はネパール初の野球チームとなりました。

その後、ルール説明を中心とした活動が数回続きました。日本では、「ミツパ会」の橋本眞理子さんのご紹介で、元阪神タイガース監督の吉田義男さんにお会いする機会を頂き、野球を指導する時のポイントなど教えて頂きました。

2001年4月から、当グループのメンバーである花倉雄宇也（プール学院大学国際文化学部卒業）が現地派遣員という形で初めてネパールに滞在し、1年間活動を行いました。花倉はこれまで2年間活動を行ってきたアマシンに加え、カリカセカンダリースクール（以下カリカ）、シリ・シッダセカンダリースクール（以下シリシッダ）に野球の輪を広げました。第5回交流活動ではネパール史上初となる対校試合が行われ、半年後の第6回活動から、現地NGO主催のNEPAL BASEBALL CHAMPION CUPが行われるようになり、初代王者のボカライエティーズ（アマシン）にトロフィーが贈呈されました。この頃から、学校が違う生徒間同士の交流も深まり、ネパール人同士で野球を教えあう光景が数多く見られるようになりました。

花倉が帰国した後、2002年5月から園田健弥（プール学院大学国際文化学部卒業）が現地派遣員としてネパールに滞在し、1年間活動を行いました。園田はこれまでの3校に加え、バルバトラセカンダリースクール（以下バルバトラ）、バッターラガリセカンダリースクール（以下バッターラガリ）、アマシン2チーム目となるNEWアマシンチームの5校6チームに輪を広げました。また、アマシンのグラウンドだけで野球をしていても野球は浸透しないという意見から、バルバトラのグラウンドで野球を行うようにもなりました。また、ボカラだけで野球を行っていても野球は広まらないという意見から、カトマンズ郊外にあるカトマンズ大学にも野球を紹介しました。そこで、ボカラベースボールクラブ（ボカラで野球をしている生徒たち）とカトマンズ大学の交流試合を行い、新聞にも大きく取り上げられました。園田は生徒たちと共にネパール語の野球ルールブックを作成し、それをもとに野球人口を増やしていきました。また、アマシンのグラウンドにフェンス建設を考案し、校長先生や現地NGOのご協力のもとで、一部分だけではありますが、野球用のフェンスを建設しました。

現地派遣員やこれまで参加したメンバーたちの期待に応え、生徒たちもご協力者から頂いた野球道具を大切に扱ったり、野球道具（ベースなど）を自ら作成したり、何も言わな

くてもグラウンドの石を拾い練習の準備をするなど、野球に対する情熱が目に見えて表れるようになりました。

しかし、新たな問題も生じました。2年間派遣員を送ったことで、生徒たちの心の中に「指導者がいないと野球できない」という依存心が育っていました。そこで、園田の帰国後1年間は、彼らの力だけでネパール野球を展開してほしい、彼らの自立心がもっと育ってほしいという願いから、現地派遣員を一時中断することにしました。野球が好きだ、ネパールに広めたい、という強い意思を持っている中で、生徒たちがどこまでできるか、私たちは見守ることにしました。

そして、2004年4月、三浦昌広（花園大学文学部卒業）が現地派遣員としてネパールを訪れました。そこで見たものは、派遣員のいない1年の間に、野球を続けている生徒たちが減少しているという現実でした。アマシン、カリカ、シリシッダの生徒の中には生活のために働きだしている生徒が多く、バッタラガリ、NEWアマシンは、教えてくれる人がいないという理由で野球を辞めていました。しかし、バルバトラでは野球が継続されていました。バルバトラのリーダー的存在のスシルが周りの子供たちに野球を教えていたという嬉しいニュースを耳にしました。また、仕事が休みの時に、野球を教えにグラウンドに来る生徒もいたということを知りました。このような生徒がいるというニュースは、私たちを元気づけました。

三浦は、まず野球が続いていたバルバトラで活動を行い、そこからアマシン、カリカ、シリシッダ、バルバトラのゲームタイム（日本の体育）の授業で野球を紹介し、人口を増やしていきました。学校を卒業するまで少しでも長い期間野球が出来るようにと、10歳～13歳の生徒を中心に活動を行いました。野球に触れ合う子供たちが増えていく一方で、野球道具（ボール）が盗まれるという問題も発生しました。道具管理については、今後も学校側や生徒たちと話し合い、同じような問題が起こらないように改善していく予定です。

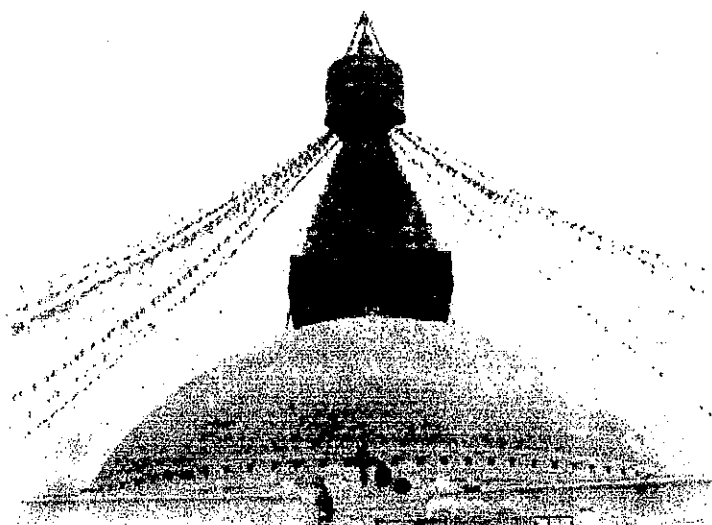
三浦が帰国する直前に行われた今夏の第10回活動では、参加者全員の手で、初めてスコアボードを作成しました。

以上のような活動を続け、ネパール野球は本当に少しずつではありますが「オリンピック」といった大きな夢に向かって、着実に前進しております。

ヒマラヤの麓で行われている野球活動、野球から生まれる笑顔がある限り、「ベースボール ラマイロ フンチャ？（野球は楽しいですか）」の呼び声が、これからも、神々の国ネパールの地で鳴り響くことでしょう。

※交流活動に参加したメンバーは、必ずネパール語やネパールについての勉強会、野球のルールの確認、怪我の応急処置の勉強、街頭募金などを事前研修として行いました。現地の人に受け入れて頂くためにも、極めて重要なことです。活動期間中も活動が円滑に進むよう毎日ミーティングを行い、帰国後には事後研修として報告書を作成し、ご協力者に向けて活動報告をさせていただいております。これらのことは当然ながら、今後も続けてい

きます。言うまでもなく、ご協力者の皆様のお陰で活動が支えられています。今後とも、ネパール野球の発展にご協力、ご支援、ご声援のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



「アフリカ野球友の会」代表 友成晋也さんを招いて

2004年9月25日（土）に行われたネパールで野球交流ラリグラスの会の定期MTGに「アフリカ野球友の会」代表の友成晋也さんをお招きし、アフリカの野球普及活動についてお話していただきました。



（写真：後列左から4人目が、友成晋也さん）

友成晋也さん：1964年東京で生まれ慶應義塾大学野球部に所属し、現在は独立行政法人 国際協力機構（JICA）の職員をされています。西アフリカのガーナ事務所での勤務期間中に、ガーナ・ナショナル・ベースボールチームを立ち上げ、ガーナ代表チームの初代監督として、オリンピック出場を目指されていました。帰国後、JICA本部で勤務し、仕事をする傍ら、NPO法人「アフリカ野球友の会」を立ち上げ、その代表としてご活躍されています。「キャッチボールで世界を平和に」が信条。

「アフリカ野球友の会」とは

- ・ アフリカに野球道具を送ります。在日アフリカ人野球チームで国際交流します。
- ・ アフリカの野球事情を紹介します。アフリカと野球の人材交流します。
- ・ 「アフリカと白球」の発行（友成さんのガーナ時代の体験がよくわかります。）

詳しくは「アフリカ野球友の会」公式HP「<http://www.catchball.net>」まで

お話の内容（一部）

- ・ 野球を普及させていくには、一人でも多くの人に宣伝することが大切である。野球を通じての国際交流。野球は日本人に馴染み深いから関心と呼ぶ。普及ということにあまり意味はない。交流することで野球の輪が広がるのが良い。「ネパールで野球交流ラリグラスの会」のメンバーの男女比率も良いし、学生も多いし、活動のきっかけも魅力的なので、もっとアピールしていくべきだ。協力者に対してホットなニュースを伝えるためにも HP の更新はどんどんした方が良い。協力者にホットなニュースを伝えていくことで親近感が湧く。マスコミを通して広めるのも一つの考え。デメリットもあるが、メリットの方が絶対多い。色々な企業や一般の方が協力してくれる。社会的にも認知され、実績になる。反対にデメリットは失敗できない。リスクが生じるからその対応も考えなければならない。TVのアンビリバーボーに出た時も、売名行為と言われたことがある。HPの掲示板などで、悪戯書きが発生する。
- ・ 野球は男だけのスポーツではない。女の人には野球をする機会がないだけ。キャッチボールは誰でも出来るし、コミュニケーションの基本。キャッチボールは奥が深い。「アメリカの治安が悪くなったのは、親子のコミュニケーションが減ったから。（お父さんに会えないことが理由）」と考える人もいる。野球というか、世界にキャッチボールを広めていきたい。
- ・ スター選手が出ると子供に夢を与える。野球は貧困の国にこそ必要なスポーツである。バッターボックスに立つと、周りの人全てが注目する。野球は民主的で平和なスポーツである。それがアフリカに野球を紹介したい原動力である。ネパールも野球連盟を作ってナショナルチームができれば子供たちの希望になる。
- ・ 野球をいかに現地の人に知ってもらうのが重要。広報を国内ですべきである。ガーナでは新聞を利用して宣伝した。その効果もあり、少しずつ野球が浸透していたが、政党が変わり、理解してくれた人も、協力してくれなくなった。ネパールも文化や宗教が異なるから、同じような問題が起こるかもしれないが、諦めず一人でも多くの人に伝えることが大切だ。共に活動を進めている現地NGOとはまめに連絡をとるべき。

お忙しいところ、当会の為に足を運んで頂き、本当にありがとうございました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。アフリカ野球のご発展心からお祈り申し上げます。

第2回ボカラベースボールクラブVSカトマンズ大学の交流試合結果報告

三浦（第10回報告書参照）とボカラの生徒の意見により、カトマンズ大学との地域対抗試合が行われましたので報告させていただきます。三浦の帰国後10月3日にESOD ECの協力により行われました。結果は6対2でボカラベースボールクラブの勝利に終わりました。



ネパール人ベースボールコーチ就任

日本人の派遣員だけではなく、現地人にもコーチになってもらい自立してもらえるようにアマシンの卒業生で野球を5年間続けているシャム・グルンが現在コーチとして野球普及活動を行っています。シャムには1ヶ月1500ルピー（ネパール人の平均収入は3000～4000ルピー）で契約し次回の第11回の交流時まで続けると話し合いました。現地からの報告では現在シャムは短大に通っているが空いた日の朝夕に各学校に回って小さい子供たちに野球を教えているとのこと。



今後の予定

- ・ 第11回ネパール野球交流活動

期間：2005年2月下旬～3月上旬

場所：ネパール ポカラ市 アマシン・バルバトラセカンダリースクール

現地での活動予定

- ・ アマ・シン、カリカ、シリシッダ、バルバトラのオールドメンバーは自分たちで他校に広めるためにはどうすればいいか考えてもらい、日本人側がバックアップできる体制をつくる。
- ・ カトマンズ大学との地域対抗試合を定期的に行う。
- ・ シャムの次に誰がコーチとして適任か希望を聞き話し合う。
- ・ ジュッディグンジャスクール、ナワプラバートスクールへ新しく広める。
- ・ ネパールのスポーツ大臣にエソデックを通して、野球をナショナルスポーツへと進展できるように申請する。
- ・ 三浦が行ったユニフォーム、手作りバット、グローブなど、今後も現地で生産できるように進める。

日本での予定

- ・ 大々的な広報活動を行い、より多くの方にこの活動へ参加してもらう。
- ・ 日本に来ているネパール人留学生に当活動に参加してもらい意見交換を行う。
- ・ 現地指導者であるシャム、エソデックのヒラチャン氏と連絡を取り合う。
- ・ 日本人による現地派遣員を継続する。
- ・ これまでの活動を本にまとめる。

これらの活動、また今後の活動に伴う資金や道具が不足しております。
皆様の暖かいご協力をよろしくお願い申し上げます。

会計報告

今回の活動に伴う収支報告をさせていただきます。

収入		支出	
前回より繰越金	21,694	第 10 回交流活動費	4,000
街頭募金(2 回)	53,414	三浦昌宏派遣費	200,000
協力者の方々より	322,611	通信費	9,908
バザー等による収益	39,700	交際費	2,100
ラリグラスの会会費	30,000	雑費	29,240
メンバーから	25,817	次回繰越金	247,988
計	493,236	計	493,236

今回、現地へ持参した道具

グローブ（近鉄から寄付していただいたもの）4 個、グローブ（ニプロから寄付していただいたもの）4 個、ビニールテープ 1 個、ガムテープ 1 個、ホームベース 1 個、ドロース 1 個、帽子 40 個、防腐剤多数

活動にご協力頂いた方々

秋元アキ子様 アスレチック BASEBALLCLUB 様 アフリカ野球友の会 友成晋也様 アラン・J・ベセット様 有村一夫様 和泉サークルズ様 和泉少年野球軟式協会様 井上治子様 いぶきのボールパークズ様 岩井都蔵様 岩坂正雄様 岩崎力様 植野雄司様 請川公一様 氏本暁子様 内海章雄様 L.D.マッセルホワイト様 大阪バッファローズ様 太田垣洋子様 大屋純子様 小川ゆり子様 沖上スポーツ様 オリックスブルーウェーブ様 梶村義行様 加羽千代美様 上平耕司様 亀井慶二様 荻野正美様 川崎好重様 川口陽子様 木川田一郎様 北山泰久様 木下典様 草竹和信様 黒田廣美様 小阪荘園子供会様 小嶋智弘様 小西康元様 小林哲也様 権隆様 西道実様 幸ジュニアファイターズ様 坂本和博様 佐古田悦子様 柴田あぐに様 社団法人ネパール協会様 杉山克枝様 ゼット株式会社様 高谷耕作様 多田圭吾様 田中絵美様 鶴野麻里子様 D.M.ヒラチャン様 寺川克様 寺谷サツキ様 中山弘一様 中村真由美様 中山雄次・昌子様 ナマステ通信様 南松ファイターズ様 西尾宣明様 西川節行様 ニバ・ダンゴル様 ニプロ野球部様 西村嘉昭様 西村成雄様 西本匡克様 ネットワーク HITO 様 ネパール料理店ラリグランス様 橋本守・真理子様 朴聖雨様 林暁美様 阪神タイガース様 藤井久仁子様 藤倉寿美子様 堀江ちずこ様 本田明様 松田浩志様 三島文子様 御手洗佐与子様 箕浦史郎様 宮川多美恵・絢江様 村上純子様 村瀬晴彦様 村瀬寿代様 室山皓之助様 森定玲子様 森美幸様 弥佐康志様 山崎美恵子様 山下たかえ様 山本みどり様 湯浅俊昭様 UCC 様 吉田等様 吉田義男様 米田歩様

街頭募金にご協力いただいた方々 学内募金にご協力いただいた方々 プール学院大学教職員の方々 プール学院同窓会の方々 ミツパ会の方々 (50 音順)